

チャンドラゴーナ会報

「 Bangladesh の人々と共に歩む宮川医師家族」を支える会
第4号 (チャンドラゴーナ現地報告会)

2008年12月15日 No. 4

URL: <http://chandraneet.nngo.jp> E-mail: Sumi3Ngo@aol.com

赴任一期3ヶ年終了のごあいさつ

皆様、お元気ですか？

8月末をもって、CHCでの一期目勤務が無事終了いたしました。これも、この3年間の皆様からの励ましやお祈りのおかげです。どうも、ありがとうございました。心配をおかけしましたが、今は家族全員元気です。娘、バングラっ子 理希(りの1歳)も、昨日3-4歩の初歩行を達成しました。理世も看護学校での心理学の講義を終了し、最終帰国準備に入っています。

帰国後10月から全国に報告会に向かいます。(翌1月末まで)皆様と現地で会えますことを楽しみにしております。

報告会が終わると、3年間で遅れた自分のアップデートのため、1-2か月旧勤務病院の福岡徳洲会病院で研修に入り最終的には、1年後、当地の2期目赴任となる予定です。

皆様のご健康を祈っております。

2008年9月 宮川 眞一・理世・理希

*宮川ファミリーの日常生活が「ぼん・ぼり通信」創刊号にまとめられています。「生活編」「風俗編」「子育て編」など。報告会で配布されていますが、ホームページでもご覧いただけます。



全国各地で帰国報告会開催中

10月から、全国各地で帰国報告会が開催されています。北海道から、鹿児島まで、約100ヶ所を廻っています。キリスト教会、小中高校・大学、病院、NGO 関係と幅広いところから、招かれています。福岡では、チャリティコンサートで献金を頂戴したり、インターネット放送や新聞記事として紹介されました。詳細は、JOCS 東京事務局まで、あるいはホームページをご参照ください。

「皆様ご支援ありがとうございます。」

チャンドラゴーナキリスト教病院は、Bangladesh 南東部のチッタゴン丘陵地帯の地域に根ざした医療活動を実施している病院です。

私の役割はこの病院を拠点として少数民族の居住地を含むチッタゴン丘陵地帯での地域保健活動に従事することです。」

今回は巡回医療(MC)について紹介します。様々な準備を経て昨年12月から始動しています。地域医療の現場では前回お話ししたBMW(保健師さんのするような仕事をする村の女性)が日常の医療相談にのったり、ある程度の薬を出したりし始めています。しかし、検査が必要な複雑症例は週1回程度訪問のMCが担います。

医師1 看護師2 検査2 薬剤2 他BMWで構成され、現在は1ユニオン(行政区)地域2箇所最低限の基材を持ち込み診療にあたっています。

病院に近い地区から開始していますので何とか車で移動が可能ですが、今後予定されている地域は舟で移動の所もあります。それでも居住地区からは遠い所で2-3時間近くかかるそうです。

チッタゴン丘陵地帯に住む人たちは構成民族も宗教も様々で、実施に先立って地域の各分野の指導者を病院に集め入念な説明会と協力要請を行いました。それは、このプロジェクトは病院が一方的に持ち込んだものではなく、地域のニーズに対応し、今後は地域が各々維持、継続努力していくものにしたいからです。

私は現在全てのMCに参加して全体の指導管理、微力ながら診療にも当たっています。長年未治療の慢性疾患も多く環境問題や経済問題とも絡んで納得のいく治療は、なかなか出来ません。しかし肺炎の早期発見で幼い命が助かったり、薬を飲み始めて楽になったという患者さんの話を聞いたりすると救いを感じます。限界性を感じながらも、ゆっくり少しずつでも良くなればと思いい日々働いています。

宮川医師は、CHC 病院での医療以外にも地域の課題に取り組んでいます。以下その報告です。(チャンドラゴーナ会の基金から一部協力しています)

[現地報告 1] マハムニ母子寮



チッタゴンから 20 km ほど、CHC (チャンドラゴーナ・キリスト教病院) に向かう途中に「マハムニ母子寮」があります。ここには全国各地から、小学校 1 年生から 10 年生までの経済的に苦しい子供達が 100 人以上集まり生活を共にしながら勉学に励んでいます。母子寮は 1976 年、渡辺天城氏によって、仏教精神に基き開設されました。当時は夫を亡くした方も子供と共に受け入れていたので、この名前だそうです。氏は後に「マハトマ・ガンジー非暴力平和賞」を受賞されています。現在は、福井宗芳氏(臨済宗・禅僧)が後を引き継ぎ運営しておられます。福井さんとは前ワーカー小宅医師の頃から関係があり、現在も医療相談にのったり、入院を受け入れたりしています。私も何度か訪問し、医療サイドから何かできないかと考えていました。そこで手始めに、緊急用の置き薬を整備することにしました。*(福井氏はその後急逝されました。)

さて今、一人ここに住むチャンパという女の子が CHC の看護学校への進学を希望しています。彼女は寮の子が入院した際、付き添いのため CHC にやって来ました。その際、病院の仕事に興味を示し、進路を考えたようです。今年 SSC を終了し進学予定でしたが、看護協会が看護学校の入学資格を HSC (高校卒業程度) 取得に引き上げたため現在も準備のための勉学を継続しています。病気の子供達だけではなく、この様な将来に夢を持った子供たちに、何らかの形で関わっていただけることを今、幸せに思っています。

[現地報告 2]

モハムニ母子寮健康診断プログラム

去年、チャンドラゴーナ会から子供たちのために置き薬を提供した施設です。

現在は、子供たち 106 人が仏教主義にのっとり集団生活をしながら学校に通っています。昨年、この住職で代表だった福井さんが亡くなられ、現在は施設出身で事務局長のノトゥーさんが切り盛りしていますが、今後の資金繰りが難航しています。福井さんが亡くなる以前に、年 1~2 回の健康診断の話が進んでいましたが、以後実現せず今回 7 月 27 日に、やっと施行となりました。

今回、CHC、CMAB (バングラデシュ・キリスト者医科連盟) の協力で、私以外に医師 2 名、看護師 3 名、看護学生 4 名、臨床検査 3 名、他 4 名の医療チームで訪問しました。健診は、一般健診に加え、視力検査、全員の血液型検査、場合によって必要な

臨床検査と治療薬処方を行いました。バングラデシュでは学校教育の中で、このような健康診断は制度としてなく、各自が何かおかしくなれば薬を試し、それでもだめなら病院に行くというのが一般的です。従って、病状も進行してから発覚することが多いのです。結果、今すぐ眼鏡を必要とする児童が 3~4 名、経度聴覚障害が 2~3 名、栄養状態の悪さが原因と思われる生理不順・胃腸の不良を訴える児童を多数認めました。採血が初めての子供たちも多く、泣きながらの検査でした。



資金難もあるため、全員に対する早急の対処は難しいですが、近日、日本からバングラに戻ってくる日本人支援者と検討することになりました。

病院受診記録、予防接種記録等を含めた 1 人 1 人の健康記録用紙を作成しましたので、今後、少なくとも年 1 回は、上記団体の協力で、このような健診を継続し、卒業時に本人に記録として渡す形にしていくとよいと考えています。

健診終了後は、彼らが作った野菜やご飯を使った昼食を取り、午後からは踊りと「ゴミ拾いおじさん」という劇を上演しました。この劇は、以前 CHC の医療廃棄物委員会の環境改善キャンペーンで上演したもので、「ポイ捨て」の多いバングラで環境を考えようというものです。

健診と「お楽しみ」で子供たちも我々も充実した 1 日になりました。今回の費用は、皆様の会費から捻出いたしました。ありがとうございました。

[現地報告 3]

ポンカ少数民族の子ものたちへの奨学金



CHC 病院で宮川医師と同僚のミットラ氏が、山岳地帯の少数民族で学校に行けない子どもたちを、チャンドラゴーナの町に預かってサポート(宿泊と奨学金)するプロジェクトに、奨学金支援を行ないました。

ポンカ (Pangkha) という少数民族の中でも少数派の子供達をチャンドラゴーナに受け入れてサポートする。ジュテン・パラとう、最寄の村バリチャリからさらに 8 時間近くかかるインド国境に近い所地域に住む子どもたち 5 名です。今回「ワンタイムサポート」として入学に必要な本・文具・服などに総計 1 万タカを支出しました。今後の支援の関わりは、さらに関係者と検討することになっています。

現地での活動の課題

関西地区での祈祷会に際して、祈りの課題として現地での活動の課題が提起されています。



(1) 混乱した政局の中、人権を侵害されたり生活が脅かされたりする人がいること。

軍部主導と思われる極端な法遵守の政策により、住居を奪われたり、店の運営が困難になったりした人たちが多くいます。CHC では、民族運動指導者への弾圧は続いているようですが、詳細は、なかなか伝わってきません。

(2) 継続しているチッタゴン丘陵地帯での少数民族と入植者の対立が早く平和的解決に向かうように。

CHC 付近では、比較的穏やかに見えるのですが、小さなぶつかり合いは日常的にみられる様です。軍が統制を強める一方、武力行使も視野にいられた反体制政治グループも存在しているようです。

(3) 地域医療プロジェクトについて

ゆっくりですが着実に進展しています。しかし、課題は多く、問題も頻繁に発生します。病院スタッフの負担が大きくなったことに伴い、不満は蓄積されています。

(4) 医師・ナース他、医療者の病院内での活動について

JOCS 奨学金で2年に渡り眼科の専門を勉強したプロビール医師の専門外来は資金難のため実現していません。若いスタッフナースが1名退職し、忙しさが増えています。

(5) 付属看護専門学校に学ぶ看護学生たちについて

新しい制度で1年生が入学してきました。入学資格が引き上げられ女子学生数が減りました。学生たちは、金銭的負担(1ヶ月600TK)や寮生活における心理的負担、また食事への不満(確かに乏しい内容)などを抱えながら、頑張っています。

(6) 病院内パプテスト教会に専任牧師が与えられ、CLC 教会がより充実しますように

婦人家庭祈祷会が守られますように

病院内には CLC (ハンセン氏病センター) 付属の教会と CHC の教会の2つがあります。

CHC の教会は現在も無牧の状態、教会員(長老)

が礼拝を運営しています。

CHC では婦人の家庭祈祷会が毎週日曜日の午後にもたれています。

字を読めない人のために讃美歌や聖書を使い「識字」のレッスンも兼ね集まります。

(7) 貧困の為に奪われていく命について

CHC には畑野元バングラデシュワーカー夫妻が始められた治療のための救済基金 (poor fund 以下 PF: 日本では life river という名前) があり多くの方が助けられています。

しかし、CHC では給食制度はだいぶ前に廃止され、付き添いの人が用意しなければなりません。その食費や付き添い人の滞在費・交通費は、治療中断の大きな理由になってしまいます。(患者が働き手の場合は、入院中の収入はストップしてしまいます: 職があっても日雇いの人が多いので)

(8) 働きたくても職が与えられない人たち、お金のために命がけの仕事をする人たちを覚えて

バングラデシュは、中国・インドと並び世界で有数のタンカーなど大型船の廃船処理場があります。チッタゴンには「ヤード」と呼ばれる処理場があり、危険な仕事を強いられる労働者たちがたくさん存在します。彼等はたとえ事故だけがをしたり、亡くなっても十分な補償はされません。

(9) 様々な理由のため、路上で生活する子供達について

チッタゴン市内にも目立ちますが、写真は空港で毎回会う子供たちです。

この子供たちは親はいますが、学校には行かず毎日空港に来てペットボトル(1個1タカになる)を集めたり、「物乞い」をしています。

(10) サイクロンや洪水のために、様々な被害を受けた方々のために

最近では報道も減ってきましたが、慣れ親しんだ環境が破壊され、最愛の人たちを亡くし苦悩を背負って生きる人たちのことを覚えたいと思います。

(11) CHC での私達の活動について

親友に近い関係を結べた職員も多くいる中、語学力の不足も原因して相互不理解や誤解を生んでいることも多くあります。CHC のトップダウンの制度の中で、私達には理不尽に思えることにも多々出会います。特に院長とは、今後さらにシェアしていかなければならないでしょう。1期目の申し送りなど作業を開始します。

(12) JOCS の活動・職員・ワーカーについて

東京・関西事務局のスタッフ・ボランティア・会員の皆さん。全ワーカー。タイ・バンコクでお世話を下さっている河村夫妻のことを覚えて。以上、よろしく願いいたします。(宮川真一 08/07/25)

* 関西では、榛木恵子 JOCS 理事や関西事務局の世話で、「祈り会」が継続して開催されています。讃美歌、聖書講読の後、開催の教会牧師よりメッセージをいただき、その後参加者で、チャンドラゴーナの活動等に思いを馳せてお祈りをしています。

*** バングラデシュとは ***

インドの東隣、ガンジス河下流、亜熱帯モンスーン地帯。国連で定める最貧国のひとつで、貧困撲滅、保健衛生・教育などの開発が求められています。

人口 約1億5千万人 (日本 約1億2700万人)

面積 約14.4万k㎡ (日本の本州程度, 日本37.8k㎡)

人口密度 1,083人/k㎡ (日本336人同比)

言語 ベンガル語

宗教 イスラム教 86.6% ヒンドゥー教 12%

経済 ジュート、米、茶を中心とする農業国。

財政支出の半分近くが外国からの援助。

最近縫製品、革製品、冷凍魚類の輸出増。

GNP 480米ドル(約5万円)/一人年

(日本38,410米ドル(約400万円)同比)

平均寿命 62歳 (日本82歳)

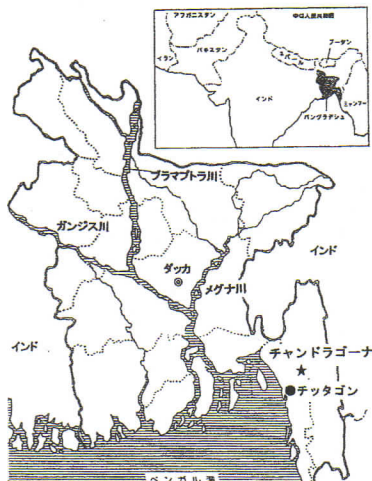
5歳未満児死亡率 69人/出生1000人 (日本4人同比)

医師数 2人(人口1万人対) (日本19人同比)

識字率 男 49% 女 30% (日本男女99%以上)

(出展:「ユニセフ世界子供白書2008」他)

チャンドラゴーナ (Chandraghona)



宮川眞一 (みやがわ しんいち) さんプロフィール

1959年愛媛県宇和島市生まれ。同郷の故岩村昇氏(元JOCSネパール派遣医師)に影響を受け、海外医療協力を志す。宇和島東高校、関西学院大神学部、徳島大医学部卒業心療内科医へ。福岡徳州会病院勤務。2005年9月バングラデシュへ赴任。3年間を終え、一時帰国し全国で報告会開催中。2009年8月に現地へ二期目3ヵ年赴任予定。

宮川理世 (みやがわ みちよ) さん

長野県飯田市生まれ。13歳より英国に滞在。カナダ・ヨーク大学、英国サセックス大学院卒業後帰国。松本市の医療機関に勤務。宮川眞一さんと結婚し福岡に在住。赴任に伴いバングラデシュへ同行。

宮川理希 (みやがわ りの)

2007年7月14日誕生。はじめまして。Nice to see you!



「チャンドラゴーナ会」は宮川眞一医師・理世夫妻のバングラデシュ南東部チャンドラゴーナでの、地域医療活動を推進するために必要な支援活動とその広報、募金活動等を行います。

「チャンドラゴーナ会」の目的、

- 1) 宮川夫妻の働きを覚え、祈りによって支え
- 2) その働きを通じて現地の人々への理解を深め
- 3) その支援を通じて、国際医療協力を連なる。

本会の活動の趣旨・目的をご理解いただければ、誰でも入会できます。現地の活動を随時ホームページや会報でお知らせし、報告会・学習会等行います。ホームページ <http://chandranet.nngo.jp>

会員の情報共有のためのメーリングリスト(ML)「Chandra-net」を開設しています。参加希望者は owner-chandra-net@freeml.com へ

どうか会の目的、趣旨を理解していただきより多くの人たちの支援・ご協力をお願いいたします。

入会案内

活動内容

現地活動支援、報告会・学習会等開催、会員募集、会報作成・印刷・発送・IT関連管理等

年会費 (会計年度 7月1日～翌年6月30日)

原則派遣期間3年間 (以降継続可能性有)

- ・会 員 3,000円
- ・賛助会員 一口 1,000円
- ・学生会員 一口 1,000円
- ・維持会員・団体会員 一口 10,000円

会費・ご寄付の送金方法

- 1) 郵便払込 郵便振替口座 01750-7-77534

加入者名: チャンドラゴーナ会

- 2) 銀行振込口座

東京三菱銀行福岡支店 普通預金 2121511

チャンドラゴーナ会代表角正信(すみ マサノブ)

現地住所: チャンドラゴーナ・キリスト教病院

Christian Hospital Chandraghona (CHC)

Chandraghona-4531, Rangamiti Hill Tracts,

Bangladesh E-mail: miyapyon@mac.com

派遣:(社団)日本キリスト教海外医療協力(JOCS)

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-18-33

TEL 03-3208-2416 FAX 03-3232-6922

<http://www.jocs.or.jp>

info@jocs.or.jp

*事務局より: 会報の発行など報告が滞って申し訳ありません。会員・寄付者の名簿や、会計報告は別紙をご参照ください。報告会をとおして二期目に向けて、さらに支援者が増えることを願って。

編集・発行: チャンドラゴーナ会事務局

「バングラデシュの人々と共に歩む宮川医師家族を支える会」

世話人代表 角 正信(すみまきのぶ)

〒811-1111 福岡市早良区脇山 1-15-12

国際多文化共生研究所内

URL: <http://chandranet.nngo.jp>

E-mail: Sumi3Ngo@aol.com

TEL 090-5925-1940 FAX: 092-804-2632